

平成22年度関西支部定期総会

社団法人日本測量協会関西支部平成22年度定期総会が、5月21日（金）大阪市中央区の薬業年金会館において、来賓として奥山祥司国土地理院近畿地方測量部長を迎え、本部の篠原茂明測量技術センター理事・副所長と多数の関西地区会員が出席して開催されました。

冒頭、宮井宏関西支部長から会員の皆様方へ日頃の支部業務に対するご協力のお礼と今年度も引き続き実施する各種講習会等へのご支援・ご協力のお願い、並びに関西地区における会員の状況（正会員・特別会員・準会員の合計数が平成20年度から平成21年度にかけて増加に転じ、このことは、CPDや測量技術者に対する国や県の評価及び評価の制度化に向けた測量設計業

協会の活動によるところであり、改めて感謝するとともに今後ご支援・ご協力をお願いしたい。）についての報告があり、来賓の奥山祥司近畿地方測量部長からは国土地理院の事業等に対するご協力お礼のあと、「土地活用促進調査後の事業として、従来からの4等基準点の設置に加え、新たに公共基準点3級相当の補助基準点を地籍調査実施に先行して行う予定となっているが、実施地区について本省で調整中のため、残念ながら現時点でお知らせできる状況に至っていない。」また、「本日も事業仕分けが行われていますが、日本測量協会が社会に対して有意義な存在であり続けていくために、その役割や事業について自ら考え整理して着実に貢献していけるよう



宮井支部長



奥山測量部長



会場風景

期待する。」さらに、「公募型入札においては、CPDに加え災害協定や小学生に対する体験学習等社会貢献も評価の対象としていく。」とのご挨拶をいただきました。

続いて小林副支部長が議長に指名されたあと議事に入り、「平成21年度事業報告及び決算報告並びに会計監査についての報告」と「平成22年度の事業計画案、予算案の提案」があり、いずれも了承されたあと、支部規程の一部改正案について提案があり、幹事が「10名以上15名以内」から「8名以上12名以内」に、評議員が「70名以上80名以内」から「50名以上60名以内」に変更する案が満場一致で承認されました。

定期総会の議事が滞りなく終了した後、篠原理事・副所長から挨拶とお礼に加え、日本測量協会の業務概要・平成21年度事業についての報告と説明が行われました。

休憩のあと「沖縄のグスクと韓国の邑城」と題して、博士・技術士で奈良文化財研究所名誉研究員である元関西支部副支部長の木全敬蔵氏による記念講演が行われ、盛会のうちに総会行事が滞りなく無事終了致しました。

記念講演の内容につきましては次のとおりです。



小林議長



木全名誉研究員



篠原副所長理事

